

令和3（2021）年度栃木県教育研究発表大会報告

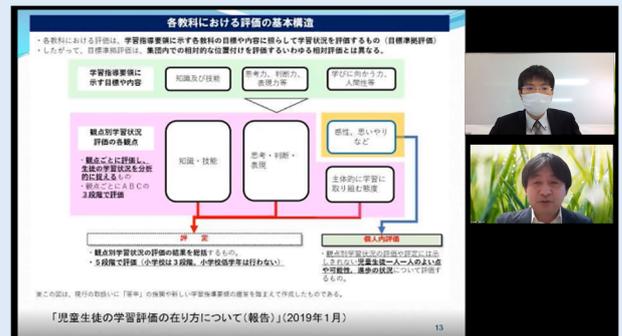
令和3（2021）年度栃木県教育研究発表大会は、令和4（2022）年1月28日（金）・29日（土）の両日、栃木県総合教育センターを会場に、オンライン（Zoom 配信）により17の部会を開催しました。二日間で、延べ1,166人の参加があり、盛会のうちに終了しました。下記において、部会の一部を紹介します。

1月28日（金）の2部では、「主権者教育研究」、「人権教育」、「学力向上」の各部会が開催されました。「人権教育部会」では、「日々の教育活動に生かす人権教育の実践」をテーマに、小学校と中学校からの実践発表及び県教委総務課人権教育室の星治副主幹からの指導助言がありました。各実践発表の事例からその成果や課題を確認することができ、今後の人権教育推進に向けて考えるよい機会となりました。



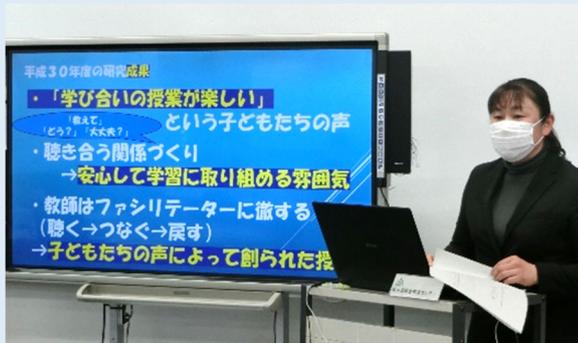
【「人権教育部会」における実践発表の様子】

1月28日（金）の3部では、「指導と評価の一体化」、「児童・生徒指導」、「道徳教育」の各部会が開催されました。「指導と評価の一体化部会」では、「資質・能力を育成する指導と評価の一体化」をテーマに、当センターの取組から見てきた各学校における課題についての発表及び京都大学大学院教育学研究科の石井英真准教授からの講話がありました。学習指導要領を踏まえ、これからの指導と評価の在り方について深く考える機会となりました。



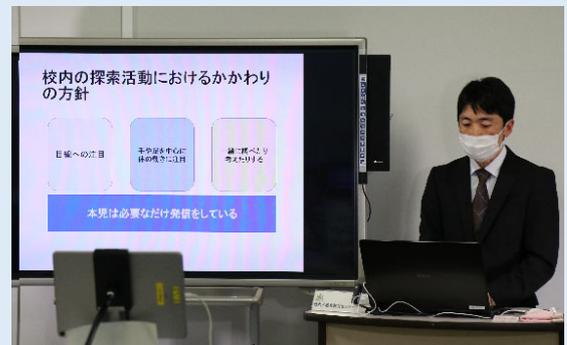
【「指導と評価の一体化部会」における司会者と外部講師のやりとりの様子】

1月29日（土）の2部では、「情報教育」、「国語」、「社会、地歴、公民」の各部会が開催されました。「国語部会」では、「主体的・対話的で深い学びを目指した国語科授業」をテーマに、小学校、中学校、高等学校から実践発表及び宇都宮大学教職大学院の大場賢治准教授からの指導助言がありました。「対話」、「読む技能と系統性」、「問いの工夫」、といった多角的な視点から、児童生徒が読みを深める授業について考えるとともに、小・中・高の学習のつながりについて意識することができました。



【「国語部会」における実践発表の様子】

1月29日（土）の3部では、「特別支援教育」、「算数、数学」、「理科」の各部会が開催されました。「特別支援教育部会」では、「児童生徒の主体的な取組を促す自立活動の指導の充実」をテーマに、小・中学校の特別支援学級と特別支援学校の実践発表及び宇都宮大学教職大学院の岡澤慎一准教授からの指導助言がありました。子どものうまくいっているところを生かすことや子どもの発信を大切にすることなど、自立活動の指導の重要な視点について理解を深めることができました。



【「特別支援教育部会」における実践発表の様子】

これらの部会以外にも、1月28日（金）の1部では、「魅力ある学校づくり」、「生涯学習」、1月29日（土）の1部では、「校内研修」、「幼小連携」、「外国語」の各部会が開催されました。オンライン開催のメリットを生かし、遠方の方や県外の方からも多くの参加があり、各部会においてはZoomのチャット機能を活用して質疑応答なども行われました。発表者や指導助言者、運営関係者の熱い思いが、参加者の皆様へ届いたことと思います。参加者のアンケートには、「コロナ禍においても、多くの先生方が素晴らしい実践をされているのを知り、ハートに火が着きました。」「他県の研修センターの発表視聴は初めてでした。栃木県での研究を見ることができたのでよかったです。」「現職教育として全教職員で参加させていただきました」等、沢山の感想が寄せられました。